

第28号 2011年11月20日



九月二日、渋谷区文化総合センター大和田にて行いました、第2回目となるチュムパンの会、発表会「舞-音」もおかげさまで無事、終了することができました。会場に足をお運びいただきました皆さまに、心より御礼申し上げます。ご協力いただいたアンケートより、いくつかご紹介させていただきます。

●初めて韓国舞踊を鑑賞しましたが、演目によって世界観が全く違うのがおもしろかったので、また次回は違う作品(演目)を観てみたいと思いました。

●手・指の使い方、足さばき、体やお顔の表情が生き生きとしてとても美しく吸い込まれるようでした。

## 韓国舞踊発表会「舞-音」を終えて アンケートの言葉から

●下半身はすべるように常に動いているのに、上半身は優雅な動きで、日頃の練習がいかに厳しく熱心なものが想像できました。日本の能楽や歌舞伎も好きで良く見ますが、同等以上と思います。また楽しみにしています。

●サルブリ舞が印象に残っています。静から動へ、祈りにも似

た舞を一生懸命見ること聞くことによって、私の心に何かを感じさせてくれました。まるで私の心にかかっているもやを晴らしてくれるような感覚です。今回は視覚的にも興味深く、白の衣装が様々な色合いになっていくのもきれいでした。

●京畿民謡、生演奏も堪能いたしました。



●一番良かったのは、最後のオルシグナです。皆さんが、やりとげた充実感を全身にみながらせて楽しそうに踊っておられて、当方も感動しました。皆さんの長年の鍛錬が成果となって、大変すばらしい舞台だったと思いました。

●これこそが韓国の舞といった感じでした。心にひびく舞と、カヤグムやチャングの音との調和がとてもステキでした。レベルが高いですね。

●生はいいな、と思つた。前に放送大のス



クーリングで、韓国舞踊のVTRを何時間も見られた時は苦痛だったけど、実物を見るのはいいな、と思えました。華やかで、少々ゴージャスな気分できつろいで見られました。

●それにしても、皆さんすごい！足・腰・膝が強いですね。バランス感覚が素晴らしい！長年踊りで鍛えられているからですね。同年代の私からすると尊敬の笑顔、とてもとてもステキでした。

●民謡の時、観客席からのかけ声がすばらしく、そのかけあい

がひとつになって、いいな！  
●静かな中にも、体の中心で熱く燃えるようなエネルギーを感じ、美しさとしなやかさ、強さ



もあいまって、見ていて清々しい気持ちになりました。韓国舞踊を習いたくなりました。

●お一人お一人の人生を感じさせるような香に感動しました。舞台の構成もすばらしく、いいプログラムでした。衣装、演奏すべてが融合し、何とも言えぬ気が漂っていました。진명이(眞明이) 合(합)이(合)ませてくださいました。

●発表会というイメージをはるかに越えたもので、感動しました!! 寿玉さんが、五方舞に加わり、アリアンでちよっとだけ出演して、生徒さん達をみごとに引き立てている心遣いに愛を感じました!

皆さま、ご協力ありがとうございました。

# 母のお腹にいた頃から

—伝統民謡唱者 李煥汶

チュムパンの会・発表会「舞」に京畿(キョンギ)民謡で特別出演して頂いた李煥汶(イ・ヒムン)先生にインタビューをしました。

—ソリ(音、転じて歌の意)の道に入るようになった切っ掛けは、どのようなものだったのでしょうか？

李煥汶 もともと私の母が京畿民謡の歌い手でした。ですから京畿民謡そのものは母のお腹の中にいた頃から聞いていました。しかし母は、私が男の子だったということもあつたので、一度も京畿民謡を習うようにといったことはありませんでした。

ただ、歌うことは好きで、高校の頃から良く歌を歌っていましたが、大学は生物学の学部に進みましたが、学内の歌謡祭とか、歌の大会には良く出ていました。しかしやがて歌手になる道は難しく、うまくいきませんでした。それで軍隊に行きました。戻って来ると、世の中ではミュージックビデオが盛んに流れており、今度は歌手のミュージックビデオを作ることに興味を湧きました。それで日本の東放学園のプロモーション映像科に留学しました。

二年の課程を終えて日本で助監督をしている時に、ソウルで母の後輩の公演を見る機会がありました。その時母の先生である李春義(イ・チュニ)先生(韓国重要無形文化財第57号)も近くに座って見ていました。

舞台で歌われる歌は、どれも知っている馴染みのある歌だったので、知らず知らずの内に自分も一緒に歌ってしまいました。それを李春義先生が聞いて、「興味があるなら習いにおいで」といわれました。この時京畿民謡をやってみないかといわれた初



めてのことでした。これが切っ掛けで先生のところへ習いに行くようになりました。それは10年前のことで、自分が26歳の頃のことでした。

—テレビドラマなんかでは、滝に向かって歌を歌ったりしていますが、ああいった訓練をされることもあるのですか？

李 あれはバンソリの訓練です。バンソリは大声を出して、喉から血が出るぐらいまで声を出して、それを繰り返して野太い声を作っていきます。京畿民謡はもとも女性为主体だったということもあり、腹から出た声で頭のないといけません。

—京畿民謡を歌う男性は少ないのですか？

李 少ないですね。活躍している人は三名程度です。現在修練している者まで含めても六名程度でしょうか？ お陰で出演の機会は多いですが、女性の場合は数が多いので公演活動も大変です。

—京畿民謡は曲数はどのくらいあるのでしょうか？  
李 そうですね。京畿ソリというくくりでい

うと、その中に京畿民謡が50くらい。雑歌が30くらいでしょうか？

—失礼ですが、公演だけで生活されるのは大変ではないですか？

李 はい。ですから、教室を開いています。殆どの人は最初は興味程度で来るのですが、その内には、はまってしまおう人が出て来ます。私の教室にもはまっておばさんたちがたくさん居ます。これは趙寿玉先生の舞踊教室でも同じだと思います。今回の公演をした人たちは、はまってしまった人たちだと思えます(笑)。

—今回出演されるようになったのはどのような経緯でしょうか？

李 以前、今回の公演の衣装を担当された韓服デザイナー、イ・ソユン先生が私の公演に、趙寿玉先生を連れてきてくれたことがあったんです。それをきっかけに趙寿玉先生が私に特別出演のオファーしてくださいました。イ・ソユン先生とは以前から知り合っていたのです。

—日本で在日コリアンや日本の人が韓国の伝統舞踊の会をしているのに参加されて、どのような感想をお持ちになりましたか？

李 実は伝統を守っていくというのは、韓国でも大変なことなんです。それを日本の



イ・ヒムン  
重要無形文化財、第57号京畿民謡履修者。  
中央大学、ソウル芸術大学にて講師を務める。  
ヒムンエンターテイメント代表。

地で行っているというのを今回間近に見て、何かをするというのは、意志の問題であって、場所の問題ではないと思いました。

特に今回驚いたのは、趙寿玉先生が舞台衣装に神経を使い、細かいところまで行き届いた指導をしているということです。韓国でも一つの公演でこれだけの衣装を揃えるのは大変に難しいことです。それをお子さんは指導して、きちんと揃えている。お弟子さんたちは趙寿玉先生しか知らないでしょうから、それを当たり前のことと思っているかもしれません。しかしそうすることは、細やかな神経を使いますし、知識や経験も必要になります。更には経済的な問題もありますし、大変なことなのです。

—衣装ということでは、今回先生は出演の度に全て衣装を替えられましたね。これは今言われたことと関係するのでしょうか？

李 今回の回は四着の衣装を持参しました。出演の度に衣装を変え、その形や色合いに変化を持たせるといえるのは、当然のことだと思っています。舞台上立つということはそういうことだと思っています。

—音楽はいかがですか？ 今回韓国から楽師の方を三名お呼びし、他に在日の楽師も加わっての演奏でしたが。

李 これは趙寿玉先生のこだわりだと思います。韓国でも舞踊公演の多くはCDの伴奏で行っています。決められた曲を決められたテンポで、練習した時と同じように踊っています。生演奏で踊る人は滅多にいません。

—衣裳といい、音楽といい、これだけのものを揃えた公演を日本の地で行ったというのは、大変なご苦労だったと思います。

—韓国からはるばる駆けつけてくださいましたありがとうございます。また機会がありましたらぜひ出演してください。

李 はい、喜んでお受けいたします。  
(聞き手…李起昇)

## 初のおさらい会

矢野陽子

2010年十一月下旬、芝居の旅公演が  
おわり、のほほん稽古場に行ったら、  
なんと散調基本を、ソロで踊ることになっ  
ていた。ひえーそりやないでしょう。あ  
んまりびっくりして、全身凍結。芝居の  
開放感が根こそぎ吹っ飛んでしまった。  
韓国舞踊モードに無理やりガチャリと切  
り替え、そしてその時から始まりました、  
おさらい会までの十九日間奮闘の日々が。

他に初級基本とセタリョンを踊るの  
だが、順序はまア散調より覚えている。  
問題は散調。頭も固く、体も固く、練  
習回数の少ない私には順序を覚えるだ  
けで至難の技。その間にも趙寿玉先生、  
先輩達のダメ出しが飛んで来る。

「少々お待ち下さい」なんて言える訳が  
ない。パニック状態の私に「矢野さん、先  
輩達もおさらい会をみんな乗り越えてきた  
んですよ、いいチャンスになりですよよ。」  
と先生が、いつものあの笑顔で言う。そよ、  
やるっきゃないのよね。おさらい会まであ  
と十日と言う時、先生が、「あと五十回踊っ  
て下さい。」えーとつまり一日五回？ 自  
宅でコタツのまわりを踊る、もちろん四匹  
の猫達は大迷惑だ。なんだなんだと逃げ惑



う。ああ猫の様に音もなく着地できたらいいな、丹田使っているのかしら。

また先生との対の稽古という、恐ろしくも貴重な時間にも恵まれた。先生は全身全霊で踊りを伝えようとする。私は受け切れず、立っているだけで精一杯。「ちょっと水飲んでいいですか。汗ふいていいですか」姑息な手段で切り換えようとするが先生は先刻ご承知、あの笑顔で「どうぞ」そしてまた続く。私はもう遅いのだが、今さらながら気付く。

基本が出来てない。全部基本。いくら直されても形にならない、続かない。「韓国舞踊じゃないのよね」という先生の吹きもそこ起因する。間に合わないよう！先生は少しでも私を引き上げようと必死だった。

2010年十一月十八日、「おさらい会」  
いよいよ散調基本。音が聞こえ、一歩踏み出す足がふるえセンターまでの距離が無限であった。私はふるえる足で二歩目を踏み出した。次は皆とセタリョン。これは苦勞した仲間達と踊れるので心強かった。そして初めての「おさらい会」は終わった。打ち上げ会場を後にした私はまったくもぬけの殻。頭には脈絡もなくいろんな思いが。来年は基本だ！先輩達に助けられたなあ、こんなに毎日韓国舞踊のことを考えたの初めて、それにしても先生は、わたしごときにあの情熱、すごい師匠と巡り会ったものだ等々。そして私は基本修練の2011年へ。

新人さんコーナー

## 境を超えられたら (弓削田 理絵)



中崎町にある民団(在日本韓国民団)本部のコリアマダンのワークショップでした。23歳の時です。それから、5年。

「肩を上げない！」  
頭でっかちで、短い首。そして、猫背。私の基本姿勢は、いつも丸っこく、縮こまっています。日々の生活でも、常に緊張し、強張っている私の身体は、ガチガチでした。それが、舞踊を初めて1年弱、少しだけ息(肩)の抜き方を覚えてきたかな？と、そう思っています。

バスケットボールや陸上で鍛えた足腰もとうに衰え、今や、練習後は膝が笑い、太ももの筋肉痛に悩まされる始末。それに、三半器官が弱いため、くるくる回るのは苦手です。でも今年、背中周りと股(太もも)とお尻の筋力をつけ、膝の柔らかさを身につけたいと思っています。そして、早く「丹田」を身体感覚として感じられるになりたい、と。

2009年に初めて観た、趙寿玉先生の舞は、大地を踏みしめながらも、空に飛び立ってしまいたいような。それは、まるでこの世に降りてきた何者かの化身のようでした。飛べるようで飛べない。越えられるようで越えられない……。

いつの日か、趙寿玉先生のように舞える日がくることを夢見て……。日々、精進する所存です。宜しくお願いたします。

21歳の時。韓国・ソウルの中心地から臨津江駅までの道のりを歩いたことがあります。それが、私と韓国舞踊との初めての出会いでした。日韓在日コリアンの若者がともに、朝鮮半島の南と北の分断線まで歩く。その最後の夜、私たちは一緒にカンガンスルレを踊りました。互いの手を繋ぎ、くるくると。

その時から、私は韓国・朝鮮に惹かれるようになりました。

帰国後、朝鮮語を勉強したり、サムルノリサークルに所属したり(どちらも途中で挫折したが……)。でも、そのノリ(遊び)とチャンドン(調子)が自分にしっくりきました。

初めて、踊りを習ったのは、大阪にて。

## 第2回

おすすめ秘伝レシピ

## 薬飯(ヤツパプ)

林鮮玉



## 《材料》

- ・もち米-2kg
- ・松の実-200g
- ・なつめ-200g
- ・甘栗-1kg
- ・小豆-300g
- ・乾しぶどう-150g
- ・グリーン豆-400g

調味料：ごま油、濃い口醤油（薄口ではダメ！）  
純ハチミツ（国産）、黒砂糖（沖縄産）、シナモン

- 《作り方》
- 1 もち米は前日に洗って一昼夜水に漬けておく
  - 2 小豆は、やや軟らかめ（つぶれない程度）にゆでておく。小豆をいだけ最初の水は捨てる
  - 3 もち米を、蒸し始める5分前にざるにあけておく
  - 4 蒸し器にサラシを敷いて、もち米を七分目位
  - 5 入れて、かために蒸す
  - 6 醤油に黒砂糖を入れて溶けるまで火にかける
  - 7 蒸したもち米を大きめの器に入れて、5と残りの調味料（ごま油以外）を加えて混ぜ合わせる
  - 8 6に松の実、なつめ、小豆、乾しぶどうを入れて混ぜる

8 7をもう一度蒸す。蒸しあがってくる時2〜3回打ち水をする

9 蒸しあがったら大きな器に入れて、最後に甘栗、グリーン豆を混ぜる\*最後に入れると鮮やかな色合いを出せる

10 仕上げにごま油を適宜かけ、ツヤを出す

\*残った薬飯は冷凍保存できません。自然解凍でもチンしても、おいしくいただけるので、作りおきして手軽なおやつにお茶請けにどうぞ。

子供の頃から、人の集まる席には必ず出る料理でした。でも自分で作ったのは、大阪から東京へ引越してから。近所に薬飯名人のアジユモニがいらして、「その味を受け継ごう」と料理教室が開かれたときに習いました。これは、そのときのレシピです。そのアジユモニのお宅の、今はもう亡くなられたシオモニ（お姑さん）が、よく庭掃除をしていらして、私がお供たちを連れてお宅の前を通ると、必ず、おかしをティッシュに包んできゅっとなじってから下さって。そんな、いろんな思い出が、心に浮かんでくる料理なんです。（月曜中級教室、イム・ソノク）

## 活動報告

◎2011年9月2、9、16、23日（毎週金曜）  
「ゆったり韓国舞踊」シニア体験コースを開催

◎2011年9月19日（月・祝）  
九州大学プロジェクト「むなかたの音〜響きあう日韓のこころ〜」に出演  
福岡・宗像市 宗像ユリックス・ハーモニーホールにて

◎2011年9月22日（木）  
チュムパンの会 発表会「舞-音-」昼・夜2回公演  
東京・渋谷 渋谷区文化総合センター大和田伝承ホールにて

◎2011年10月8日（土）  
「男たちの手仕事 vol.7」のLIVE EVENTとして、趙寿玉「季節を舞う〜白い闇」公演  
東京・銀座 ギャラリー悠玄にて

◎2011年10月29日（土）  
「한일판타지」(ハニルパングッ)  
韓国・ソウル KOUS にて



## 今後の予定

◎2011年12月17日（土）  
趙寿玉チュムパンの会 おさらい会  
榎町地域センターにて  
（見学可。事前予約をお願いします。）

問い合わせ先：チュムパンの会事務局 ☎090-6312-7156 林鮮玉 E-mail: chumpant0530@ezweb.ne.jp